

会議報告

さけます関係研究開発等推進会議

あだち ひろやす

安達 宏泰（北海道区水産研究所 業務支援課）

はじめに

平成 24 年 8 月 1 日に札幌市において、「さけます関係研究開発等推進会議」を開催しました。本会議は、さけます類に関する研究開発や個体群維持のためのふ化放流について、関係行政・試験研究機関及び増殖団体等との情報交換を密にし、連携強化を図ることにより、さけます類に関する総合的な研究開発等を効率的かつ効果的に推進することを目的に設置したもので、研究開発の計画・成果等に関する情報交換と連携研究の可能性等を検討する「研究部会」、研究開発等の成果普及・情報交換とニーズの把握を行う「成果普及部会」で構成されています。

研究部会

9 時 30 分から水産庁、7 道県試験研究機関、水産総合研究センター関係各研究所および 3 道県水産行政部局、2 大学の 64 名参加の下で「研究部会」を開催しました。北海道区水産研究所福田所長の挨拶の後、議事に入りました。

・各機関における研究開発の実施状況 北海道区水産研究所が示した各道県の試験研究機関および水産総合研究センターの平成 24 年度のさけます関連調査研究課題の一覧表に沿って、各試験研究機関から平成 24 年度研究計画の補足説明および平成 23 年度研究成果情報が紹介されました。

また、各試験研究機関が行った平成 23 年度の標識放流結果と平成 24 年度の標識放流計画につ

いて北海道区水産研究所が報告し、変更等があった場合には北海道区水産研究所さけます資源部に報告していただくことが確認されました。

・さけます類の研究開発内容についての意見交換

(1) サケの来遊数変動について情報交換

北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場から「北海道におけるサケの来遊状況」、新潟県内水面水産試験場から「新潟県南部でのサケ来遊数の減少について」、岩手県水産技術センターから「岩手県の沿岸滞泳期におけるサケ幼稚魚の状況」が紹介され、北海道区水産研究所が「2011 年サケ来遊状況：来遊不振から学ぶ」と題して昨年度の来遊状況および太平洋側の隔年変動の状況等を紹介しました。

その後、各地のサケの来遊数変動に関する情報交換を行い、問題解決に向けた今後の課題として、初期減耗や前期群減少の要因を特定するための作業仮設の構築と検証、不漁時における資源管理目標に関する研究、ふ化放流現場での種苗生産工程の再確認等が挙げられ、今後も連携して調査研究に取り組むことが確認されました。

(2) さけます類の自然再生産の助長およびふ化放流と野生魚の共存を目指した研究開発についての情報交換

北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場から、「北海道で取り組んでいる野生サケ研究について」、石川県水産総合センターから「手取川における自然産卵親魚と降下稚魚について」が紹介され、北海道区水産研究所が「サケマスの自然再生産量の現状について」を紹介した後、さ



写真 1. 「研究部会」会議全景.



写真 2. 「研究部会」の座長を務めた永沢さけます資源部長.

けます類の自然再生産に関する情報交換が行われました。

今後の課題として、野生魚に関する分布調査、利用、管理方策およびふ化放流魚との相補的管理による資源維持の可能性を模索することの必要性等が挙げられ、このような検討には河川管理者を交えた意見交換も必要と認識されました。

また、昨年要望があった共同応募が可能なプロ研課題案として「自然再生産を利用した（さけます類）来遊安定化技術の開発」が提示され、今後、来年度のプロ研応募を視野に入れて連絡を取り合うことが確認されました。

・その他 岩手県水産技術センターから、東北から北海道にかけての太平洋側のサケ来遊数減少の原因究明に向けて、基礎情報の収集を目的とする「太平洋沿岸におけるサケ幼稚魚の分布等に関する研究」について共同研究の要望があり、翌日、岩手県水産技術センター、北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場を含めた打合せを行うこととしました。

また、さけますに関するモニタリングデータの CD を、後日配布することが了承されました。

成果普及部会

14 時半からは関係道県の行政機関、増殖団体、漁業団体等が加わり、170 名の参加の下で「成果普及部会」を開催しました。

北海道区水産研究所福田所長の挨拶に続き、来賓を代表して水産庁増殖推進部栽培養殖課前課長からご挨拶をいただいた後、議事に入りました。

・成果発表

(1) サケ防疫連絡協議会の設立

水産総合研究センター井上理事が、この協議会が北海道におけるさけますふ化事業に携わる機関が連携してサケ科魚類の疾病の予防・防疫対策を推進するための体制を構築し、我が国のさけます類の漁業の持続的発展に寄与することを目的として設立されたものであることを説明しました。

(2) リスク管理に基づくさけます類の細菌およびウイルス病対策

北海道大学の吉水特任教授から、サケ科魚類の病原体（細菌とウイルス）リスク評価と有効な防疫対策が紹介されました。サケに対するリスクの高い病原体として、ヘルペスウイルス、細菌性腎臓病（BKD）原因菌、細菌性鰓病原因菌、せつそう病原菌が挙げられ、防疫のための重要な管理点として、病原体フリー用水の確保、河川水使用時の殺菌、卵消毒、飼育水温などが指摘されました。また、親から子に垂直伝播する BKD および

冷水病の有効な防除法として、受精前の等張液による卵洗浄が紹介されました。

(3) さけます類の原虫病対策

北海道区水産研究所さけます資源部浦和次長が、ふ化場で飼育されたさけます類の稚魚に外部寄生する原虫類：イクチオポド、トリコジナとキロドネラの発生状況、病原性および有効な対策を紹介しました。病害の程度は原虫の種類により異なり、魚の状態や飼育環境にも影響を受けるので、原因種と発生状況を正確に把握することの必要性を指摘しました。

また、低濃度の食酢を用いた駆虫試験の結果を紹介し、原虫の種類により効果が異なること、駆虫作業時には水素イオン濃度（pH）を測定し、排水が河川環境等に影響を与えないように充分配慮する必要があることを説明しました。

・情報提供

(1) 平成 23 年度サケ来遊の総括及び今年度見込み

北海道区水産研究所が、昨年の会議で報告したシブリング法と環境要因等を使った重回帰モデルによる平成 23 年度のサケ来遊見込みについて、見込み値と実際の来遊数を比較し、いずれも見込み値が実績よりも過大に評価されていたことを報



写真 3. 「成果普及部会」会議全景。



写真 4. 「成果発表」での発表者。リスク管理に基づくさけます類の細菌およびウイルス病対策：北海道大学吉水特任教授（左）、さけます類の原虫病対策：さけます資源部浦和次長（右）。



写真5. 「情報提供」での発表者. 平成23年度サケ来遊の総括及び今年度見込みについて：斎藤資源評価グループ長（左）、東日本大震災からの復興状況について：岩手県水産技術センター小川主査専門研究員（右）。

告しました。平成24年度のサケ来遊見込みについて、シブリング法（対象エリア：オホーツク&根室，太平洋，日本海）と環境要因等を使った重回帰モデル（同：オホーツク&根室，えりも以西&本州太平洋）により推定した結果を紹介し、手法の違った複数の方法で見込み値を検討することによって推定精度の向上に繋がることが期待されることを説明しました。

(2) 東日本大震災からの復興状況

岩手県水産技術センターから、岩手県における東日本大震災によるふ化場の被害状況について、被災直後の残存生産能力は被災前の32%であったことが紹介されました。また、7月1日現在の復旧状況が震災前の72%相当であり、今後着手する施設整備で90%まで復旧する見込みであるが、資材不足等で今漁期に間に合うかがカギとなっていることが説明されました。また、真の復興は低迷しているさけの回帰尾数を回復させることであり、種卵確保対策が喫緊の課題であることが説明されました。

・意見交換 最後に、本推進会議や水産総合研究センター等に対する要望や意見交換の場を設けました。北海道さけ・ます増殖事業協会から、「北海道及び本州の太平洋海域に面しているほとんどの地域では、近年、さけの来遊量が減少傾向にあり、その減少要因は、様々な説があるものの解明されていない。さけ資源の回復は急務であり、こ

の減少要因の解明をお願いしたい。」と要望があり、北海道区水産研究所が、「太平洋沿岸域における来遊数減少をはじめ、さけ資源の不安定な変動は当センターとしても大きな問題であると認識しています。北海道や岩手県の研究機関等とも意見交換しながら、資源変動に関する研究を継続的に取り組んできました。今後も海洋環境を取込んだ資源動態モデルやシミュレーションなど新しい手法を取り入れながら、関係機関と連携して様々な視点から検討を重ねていきたいと考えています。」と回答しました。

アンケート結果

本推進会議の参加者を対象に、今後の会議をより充実させるためのアンケート調査を実施しました。質問「会議内容は業務に役立つ内容でしたか」に対し、「はい」47%、「まあまあ」41%、「あまり」または「いいえ」10%で、「配付資料は役立つ内容でしたか」に対し、「はい」43%、「まあまあ」45%、「あまり」または「いいえ」各6%の回答でした。「業務に役立つ内容」や「取り組むべき課題」としては、主に道県機関の担当者がサケ来遊資源情報を、民間増殖団体等の担当者が原虫症対策を挙げています。

おわりに

本推進会議は、北海道区水産研究所と関係道県の試験研究機関、行政機関、団体等との情報交換を密にし、ニーズを把握して相互の連携強化を図り、さけますに関する研究開発並びに個体群維持のためのふ化放流を効率的かつ効果的に推進するために開催しているものです。さけますに関する様々な機関や団体が一堂に会して情報や意見交換ができる貴重な機会であり、ブロック推進会議とは異なる「分野別推進会議」に位置付けて開催しています。

会議終了後には、参加された皆様にアンケート調査へのご協力をお願いしており、寄せられたご意見、ご要望を踏まえ本推進会議をより充実したものとすよう努めて参りますので、関係者の皆様には今後ともご参加いただきますようよろしくお願ひします。